

## 第5期第1回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成24年6月6日（月） 10:00～12:00

会 場：河内長野市役所5階 501会議室

出席委員：久、中西、青海、岩井、堀、藤本、井谷、奥野、門田、芝本、土橋、常石、飛良

事務局：市民協働室：田和、加山、浦、長野、東、杉本

### 1. 開会

① 開会、委嘱について

委嘱状交付

② 委員・職員紹介

各委員による自己紹介

副市長挨拶

事務局職員紹介

③ 本懇談会について

事前資料に基づいて事務局説明

④ 会長、副会長について

選出について事務局が腹案を提示、会長に久隆浩氏、副会長に中西久雄氏を選出  
会長・副会長挨拶

### 2. 案件

① 「協働によるまちづくり」の推進について（平成23，24年度の取組について）

② 市民公益活動支援センターの評価方法について

③ その他

### 3. 閉会

① 「協働によるまちづくり」の推進について（平成23，24年度の取組について）

※ 資料1に基づき事務局説明

会 長：どうもありがとうございました。色々な仕組みがあり、それをきれいな図で表していますが、これから形にしていくことが重要だと思います。更には、この仕組みで動いていることを、全ての河内長野市民に知っていただくことも課題です。懇談会の皆さまの力も借りながら進めていっていただきたいと思います。質問はございませんか？

会 長：次回以降の懇談会で、これらの仕組み1つ1つが話題になってくると思いますので、またその時に質問や意見交換をしていただければと思います。今日は概略説

明を承ったということで、次にいきたいと思います。

それでは、続きまして、毎年恒例行事になっております市民公益活動支援センター「るーぷらぎ」の評価です。任期が改まって一番最初にお願いするのは内容的には難しく、とまどいもあろうかと思いますが、説明が終わってからご質問いただければと思います。それでは、市民公益活動支援センター「るーぷらぎ」の評価方法のご説明をお願いします。

## ②市民公益活動支援センターの評価方法について

※ 資料2に基づき事務局説明

会 長：ありがとうございました。私の方から補足ですが、初期の頃はみんなで評価方法を考えてきましたが、懇談会側も慣れてきまして、昨年と同じ評価方法でいいかというご提案です。

第三者の評価ということで、センターで働く方々が自らの評価をし、仕事を願っている行政もセンターの仕事の評価をします。これで第一、第二です。そして、三番目の私たちがこの2つの評価を評価させていただきます。23年度のセンター側の評価と行政側の評価が送られてきますので、それを拝見して懇談会としての評価をするのが今回の評価です。たくさん内容がありますので読むのも時間をかけて読んでいただくことになろうかと思いますが、よろしくお願います。ちょうど1ヶ月ぐらいありますので、センターへお越しいただいて、実際にどういうことをやっているか、見ていただくお時間があれば見ていただくのもいいと思います。るーぷらぎの紹介はあとでしていただくとして、評価に関してご質問等ございませんか。

会 長：少しでもみなさんの負担を軽減するために、私なりにはこういう読み方をしてきましたというのを言うと、ここに行政側評価とセンター側評価があり、◎・○・△という評価が入ります。今回も△は無いだろうなと私は思っていますが、もし△があればそこを優先的に検討していただければと思います。さらには、行政評価とセンター評価は別々にされますので、評価が違うことも起こります。そういうところを重点的に見ていただいて、検討していただきますと良い評価ができるのではないかと思います。何か疑問の思うこと、不安に思うことはございませんか。それでは、るーぷらぎのご紹介をお願いします。

委 員：このしおりは、平成19年11月19日のオープン時に作成しました。苦勞して作ったのですが、それからいろんな仕組みができてきましたので、もう一度作るチャンスがあれば色々なことを加えて作っていただけるのになと思います。るーぷらぎにまだ一度も足を運んでくださらなかった方もいらっしゃると思いますが、どうぞいらしてください。センターの評価については、指定管理をしました当初は戸惑いました。行政評価というのは自分で受け入れりましたが、第三者評価というのには戸惑いがありました。よそのセンターでも第三者評価が行われているところはまずないので、それはしんどいだろうと言われます。でも今は、評価を受けて、

他の方の声をいただいて、事業をしなくてはいけないというふうに見えるようになってきました。それは指定管理をして数年がたち、一生懸命やっているという気持ちから、評価を受け入れる余裕が出来てきたのだなぁと思っています。それと同時に、センターを利用してくださる方々の声がすごく届くようになり、それが私たちの事業の中で活かされていると思っています。そういう点で、1年間の活動の記録を報告書の形にしてみなさんに見ていただきと思っています。その中には自分達の反省点も含めて、すべての形を報告しています。協働という難しい分野ですが、このセンターでの事業を勇気づけていただけるような、力をいただけるような、みなさんの評価をいただきたいと思っています。おこがましい言い方ですが、正直な気持ちです。以上です。ありがとうございます。

会 長：私もずっと一緒に歩ませていただいておりますけれども、センター長を中心に、利用者を含めてみんなで育て上げたセンターだなといつも感心して見ております。最近の外からの視察も受け入れておられ、私も河内長野のる一ぷらざを紹介しています。行かれてどうでしたか聞くと、「とても良かった」「暖かい雰囲気が伝わります」という話もたくさんいただきます。

この前の前の第三者評価ですか、行政の評価が厳しいものになっておりまして、委員の中から「厳しすぎる」「センターはもっと頑張っている」というセンター側の応援メッセージもいただきましたし、これが第三者評価の良いところだと思います。理想は、去年も頑張っていたので今年も昨年どおりに頑張ってくださいという二行ぐらいになればと思っています。どうしても評価する立場からすると、何か言わないとというふうに考えがちですが、きちんとやれているから今までどおり頑張っておねというのでいいのかなと。毎年、現地で評価した方が良いということで、評価の時はる一ぷらざへ行かせていただきます。案件は以上でございますけれど、せっかくの機会ですので、何かおっしゃりたいことやPR等があればお願いします。

委 員：趣旨からはだいぶ外れると思うのですが、最近気になっていることがあります。

これは行政の方のお仕事だと思うのですが、一つは長野駅前の陸橋の時計が長い間不良で動かないです。毎日10時30分です。動かすのがだめならだめで不良と貼って欲しいです。関係の部局に申し入れていただければありがたいです。もう一つはバスのことですが、通勤時を除けば、大型バスに2、3人しか乗っていません。もっと小型のバスでもいいのではないかと気がします。

事務局：以前に担当しておりましたので、私の方から回答させていただきます。駅前の時計の件につきましては、色んなところからご指摘をいただいております。ただ、かなり以前に作られたものなので、部品がないということで修理をすることが出来ないそうです。一時期、故障という張り紙を付けていたのですが、取れたようなので、また付けるよう担当課に言うておきます。それと、陸橋に屋根をつける予定をしまして、工事に合わせて時計の撤去もされると聞いて

ますので、もうしばらくそのまま置いておくことになると思いますが、改善はされていくと思いますのでよろしくお願いします。バスの件は、以前バス会社に仕事の関係でお聞きしたことがあります。やはりバスの利用が一番多い通勤通学の時間には大型がいるそうです。大型バスは朝夕だけ使って、昼は小型バスを出すというのは出来ないそうです。昼間はお客さんが少ないですけど、大きなバスを使ってご利用いただいているというのが現状ということです。

会 長：私もコミュニティバスの評価をさせていただいて、もっと小さなバスなら安くすむのではないのかとよく言われるのですが、実は一番お金がかかるのは運転手の人件費です。バスは大きくても小さくてもそんなに変わらないですね。2つのバスを持つ方が経費がかかるので、大きなバスを持っているのが一番安くつくそうです。実はこういう話が出ることも、協働で重要だと思うんですね。わざわざ言いに行く程のことでもないけれど、気になっているということを出せる様な関係、あるいは出せるような場所を増やしていくことがすごく重要なだと思います。懇談会で時間が余るようでしたら、またこういう機会を持ちたいと思います。他にいかがですか。それでは事務局にお返しします。

事務局：ありがとうございました。本日の案件は以上でございます。先ほども申し上げましたように、次回の懇談会では、るーぷらざの第三者評価をお願いすることになっております。日時の方は7月6日金曜日午後2時から、現地るーぷらざの方で行いたいと思いますので、ご参加よろしくお願ひいたします。本日は長時間にわたるご検討ありがとうございました。以上で終了させていただきます。